

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4270400940
法人名	中村 合名会社
事業所名	ケアガーデン オアシス グループホームつきとほし
所在地	〒854-0001 長崎県諫早市福田町2番22号 (電話) 0957-35-5180

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1F		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	平成21年4月15日

【情報提供票より】(平成21年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 3 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3階建ての	2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	4,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
または1日当たり		1,100 円		

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	犬尾内科医院・みぞこし歯科医院
---------	-----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

諫早市内の合名会社が経営されている。当ホーム名の「つきとほし」の由来は会社の主力商品名から名付けられている。当ホーム周囲は住宅地で商店や病院、神社や公共施設に囲まれている。バス停が近く利便性がよいので、バスを利用しての家族の訪問が多い。庭が広く趣向を凝らした作りでベンチなどがありこれからの季節は、入居者が庭や周囲の公園散歩を楽しみとされている。介護の指針を「プロ意識・責任感・目配り・気配り・報連相打」と掲げられ、日々の介護に取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で取り組まれた改善課題を、「改善計画シート」を作り検討を重ねられている。地域密着型としての理念についてはスタッフ会議で検討された。重度化や終末期に向けての指針について、基本的に終末期の看取りはしない方針であるが職員の死生観の研修には前向きに捉えられている。災害対策については、継続して検討されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 採用後1年未満の職員も含め全職員に自己評価票を配り書き込んでもらった。各ユニットのホーム長・計画作成担当者・職員リーダーがまとめられた。自己評価に向き合うプロセスを日々の介護の振り返りと理解されている。外部評価の結果は改善計画シートを作成し取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 開催回数が年3回程度になっている。地区住民の代表者と民生委員、行政職員や有識者などが参加されている。議事録では、市担当者から「地域密着型サービス」の説明・ホームでの1日の流れ・専任ドクター設置報告と説明・ターミナルケアについての意見交換などされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見箱を設置し、家族訪問時に意見などないか聞き取りをしているが殆どない。年1~2回忘・新年会や食事会を兼ねて家族会を開催しているが、運営に関する意見は特に聞かれない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し行事にはなるべく参加している。近隣からの入居者もおられ、老人会の「サロン」へ入居前から参加されている方は継続していかれる支援をしている。教育機関との連携を持ち、中学生の体験学習の受け入れ、小学生や幼稚園との交流をもっている。地区行事の「お弘法さん」への手伝いもされている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ユニット「つき」は設立当初の理念【明るい笑顔でほのぼのと、ありのままの私とあなたで過ごしましょう】を継承されている。ユニット「ほし」は【笑いながら元気に自分のペースでゆっくりと人生を楽しみましょう】の理念に地域密着として「やさしい街でやさしい人たちと」を加えて取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回スタッフ会議開催時に「理念」に沿った介護ができてきているかを念頭に、職員間の情報の共有と日々の介護に当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し行事にはなるべく参加している。近隣からの入居者もおられ、老人会(サロン)に入居前から参加されている方は継続して行かれる支援をしている。教育機関との連携を持ち、中学生の体験学習の受け入れ、小学生や幼稚園との交流を持っている。地区行事の「お弘法さん」への手伝いもされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	採用後1年未満の職員も含め全職員に自己評価票を配り、書き込んでもらった。各ユニットのホーム長と計画作成担当者、職員リーダーがまとめられた。自己評価に向き合うプロセスを日々の介護の振り返りと理解されている。外部評価の結果は改善計画シートを作成し取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催回数が年3回程程度になっている。地区住民の代表者と民生委員、行政職員や有識者などが参加されている。議事録では、市担当者から「地域密着型サービス」の説明・ホームでの1日の流れ・専任ドクター設置報告と説明・ターミナルケアについての意見交換などされている。		

ケアガーデン オアシス グループホーム つきとほし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市の職員が毎回参加されており、意見交換ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問は週1回以上ありその都度生活状況の報告をし、家族から本人に関する気がかりなことを話してもらっている。県外に住まれている御家族も月1回は訪問をされている。月1回は金銭出納帳を確認してもらい、不足分は入金されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族訪問時に意見などないか聞き取りをしているが殆どない。年1～2回忘・新年会や食事会を兼ねた家族会を開催しているが、運営に関する意見は特に聞かれない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動はない。2階管理者が昨年4月交代されたが同じユニット職員がホーム長になっており、入居者へのダメージは殆ど見受けない。新規採用の職員は家族が来られた時に随時紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパーバイザーの指導の下に職員へのアドバイスを受け入れながら日々の介護に取り組みながら、研修にはできるだけ参加している。職員間での情報の共有や日常的な介護の場面で研修を受けた職員がアドバイスする環境ができています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回開催されるグループホーム連絡協議会には施設長が参加し、研修会や意見交換会には職員が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>併設のデイサービス利用者が入居されることも多く、通いなれた場所で顔なじみの職員がおられることもあり、スムーズな入居に至っている。在宅から入居に至る方については、家族との面談や情報収集、本人を含めた見学をしてもらい、馴染みの家具を少しずつ持ち込むなど入居に対する動揺を抑えた柔軟な対応をされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と職員が共に過ごす時間の中で介護してもらうだけではなく、入居者が培った暮らしの知恵や風習などを教えてもらうことが本人の張り合いになるような支援をしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者のその人らしい暮らしの支援として、本人の生活歴や習慣となっていることの把握と、本人が本音を語れる信頼関係を築くために「この人はこうだ」と決め込むことがないような職員同士の情報の共有に努められている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の生活歴や家族からの情報、また、家族が知らない若い頃の話などを職員と本人の1対1で話す機会を持ち、常に新たな発見や情報の取得から職員間の共有やアイデアを基に、ケアプラン作成に役立てている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>スーパーバイザーの助言を基に現状に即した介護計画の見直しをされている。特に転倒防止が2ユニットの課題となっており詳細な日々の状況記録がなされている。</p>		<p>詳細な記録を残すために費やす時間が「入居者と寄り添った介護」に相反することにならないように、詳細な記録が必要な方、身の回りのことが出来る方など、入居者によって記録の取り方の見直しをするなどの工夫が期待される。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの機能を筋力低下予防に役立てる手段として利用されている。病院受診の送迎や受診介助に職員が付き添われている。家族や本人の要望で外泊される入居者の支援も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との連携を保ち、情報の共有をされている。協力医療機関以外に、当ホームの専任医師の確保に向けた取り組みを実現し、家族へ任意での同意書を作成された。現在2週間に1回専任医師が往診をされ、入居者の話し相手となっておられ、良い関係を築かれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期への対応に関しては、入居時の重要事項説明書と合わせて医療行為はグループホームではできない事を書面で渡してある。どこまでホームで対応するか職員間で話し合い、方針の共有を今後の課題とされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を損なうような言葉使いがないか、トイレに誘導する際に他の入居者に聞こえないような配慮をしているかなど、常に職員同士で注意し合える環境はできている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間に集まれる以外は、一日の過ごし方は入居者それぞれのペースで暮らしの支援をされている。買い物や散歩を希望されるときはなるべく希望に沿う努力をされている。		

ケアガーデン オアシス グループホーム つきとほし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや盛り付け、配膳など入居者の能力を見極めた支援をされている。職員は入居者と同じ食事を同じテーブルで食べておられ、入居者が食べていない皿を移動させたり、声かけをされており、和みの時間を過ごされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴曜日を特別に設定せず、職員の都合ではなく、入居者の希望に沿った時間に介助されている。入浴嫌いな方には入浴をいつしたか記録を見せて納得してもらったり、入浴剤で気分を変えるなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性の入居者が多く、生活の延長として食材の下ごしらえや買い物、献立の助言や味見をしてくださる方もおられる。洗濯に関わる作業を好まれる方にはお願いをされており、生き生きと張り合いのある暮らしの支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	各階からの展望が良く、オアシスにふさわしい庭を広くと取られている。訪問当日は庭園内の道沿いの桜が眺められ、天気の良い日もあるが、時間があれば買い物同行や近所を散歩するなど外気に触れる機会を多く持つように努力されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上1階玄関の自動ドアはインターホンを通じて開閉する。エレベーターを使用して各階ユニットに行く。各ユニットの玄関は施錠はされておらず、出入りについては自由に行ける。毎日の散歩や買い物など外出の機会を多く持ち庭を眺める楽しみといつでも庭に出られる工夫をされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各階ユニットからの非常出口と階段があり、スプリンクラーは平成21年度設置予定である。災害時及び緊急時マニュアルは作成されている。自然災害時への具体的な検討はしていない。		地域住民に災害訓練に参加してもらうような呼びかけと、災害時の非常持ち出し品リストや、備蓄など準備されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人が食べられる食事量の加減や、水分量の観察をして栄養バランスを考慮して支援している。夜間はペットボトルを利用していつでも飲まれるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット玄関周りは飾り付けや植物を置くなど工夫をされている。庭に面した明るく広い窓からの眺めが良く、季節感のある雛人形などの飾りつけや花を生けてあり、金魚の水槽も和みをもたらしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が居心地良く過ごせる馴染みの家具を置いてあったり、生活のメリハリをつける習慣がある入居者の部屋は本人が好まれるように昼間は布団も片付けるなど、性格を捉えた支援をされている。		